

皆様ご存知のダルマさんには、モデルとなった実在のお坊さんがいるといわれています。名を「菩提達磨<sup>ぼだいだるま</sup>」といい、今からおよそ一五〇〇年前、現在のインド出身で中国に禅の教えを伝えた方です。お寺では、尊敬の念を持って「達磨大師<sup>だるまだいし</sup>」とお呼びします。

「達磨大師」は、良き人生を送るためには“正しき理論”と“正しき実践”が大切であると説かれています。

ここからは、ある一人の高校生の告白です。

彼は一時期、ファーストフード店でアルバイトをしていました。彼はその日、食事を抜いて、空腹のまま<sup>ちゅうぼう</sup>厨房に立っていました。空腹を我慢してハンバーガーを作っていたとき、ある思いに<sup>か</sup>駆られたそうです。

「人の食事を作っている自分が、どうして空腹でこんなに<sup>つら</sup>辛い思いをしなくてはならないのか・・・一個ぐらい食べたって見つからないし・・・」

店の決まりで、商品を厨房で勝手に食べるのは違反行為です。彼が空腹を必死にこらえていたところ、今まで店頭で並んでいたハンバーガーが、販売期限を過ぎたので厨房に戻って来たのです。

規定の時間が経つと、店頭で並んでいるハンバーガーを下げなくてはなりません。しかし、下がってきた商品を食べるのも違反行為です。彼は悩みに悩んだ挙げ句、空腹を満たすために厨房の物陰でハンバーガーを食べてしまいました。

後ろめたさを感じながらも空腹は満たされ、いつも通りの仕事をしていると、店内にいる子どもの表情に気がついたそうです。それは、家族に囲まれ、明るいテーブルに就いて、さきほど彼が作ったハンバーガーを食べている、<sup>まんめん</sup>満面の笑顔でした。

同じハンバーガーを食べたはずが、店内で見かけた子どもはの笑みを浮かべていました。そして自分はといえば、後ろめたさを感じつつ、コソコソと空腹を満たす食事をしていたのです。

そして、彼は食事が、ただ空腹を満たせば良いというものではなく、どのような状況であっても、人間にとって生きていくのに大切な食事という行為を、ないがしろにはいけないということに気づいたそうです。

一日の仕事を終えた彼は、店長の元に行き、自分が決まりを破ってしまったこ

とを謝り、これからどのような態度でアルバイトに取り組むべきか反省をしたそうです。

これは、「<sup>だるま</sup>達磨大師」が示された“正しき理論”と“正しき実践”ということと通じています。もしかすると、人生の悩み、苦しみ、過ちこそ、いかにして正しき人生を送ろうかと考え直すきっかけになるのかもしれない。

— 終 —